ギャラリー Terra-S 2026 年度第三期 常設展

斎藤 博：初期作品を中心に

会期　2026年11月27日（金）- 12月19日（土）　11時 - 18時
休場日　11月29日（日）、12月6日（日）～12月10日（木）、12月13日（日）
会場　京都精華大学ギャラリー Terra-S 常設展示室　入場無料



斎藤博（1938–2025）は兵庫県に生まれ、京都学芸大学（現・京都教育大学）で洋画を学び、後に義父となる伊谷賢蔵（1902–1970）に師事しました。1968 年から京都精華短期大学で洋画教育に携わり、学長や美術学部長も務めるなど、本学の教育・運営に長年尽力しました。

1967 年、冬の青森・下北半島で漁師たちの暮らしを取材して描いた「漁夫」シリーズが第 22 回行動美術展に初入選。翌年には《下北の漁夫》で京展市長賞を受賞しました。1973 年、京大人類学霊長類調査隊に同行した東アフリカの旅を経て描いた《サバンナの住人たち》で京展賞を受賞。その後は能登半島の朝市で働く女性たちを描く「朝市」シリーズや、室内の日常に目を向けた「子供」シリーズ、裸婦やマネキンなど、モチーフはさまざまに変化し、晩年には段ボールや厚紙、樹脂板、発泡スチロール、金属板など多様な素材を用い、アッサンブラージュの手法で制作しました。

本展では、本学が所蔵する初期作品 7 点のうち、初展示となる 3 点と、企画展「描かれた動物たち」で展示した《サバンナの住人たち》を引き続きご紹介します。

作品画像：斎藤 博《下北の漁夫 I 》1968 年、京都精華大学ギャラリー Terra-S

GALLERY TERRA-S